

## 第4回「平成の森」に寄せる子どもたちの思い

地域パートナーシップ支援センター 小野紀之（日詰在住）



今年は例年以上に紫波町内各地からクマの目撃情報が寄せられ、作業に支障が出た方々も多くいらしたことでしょう。

2000年の新世紀未来宣言以降、環境意識の高まりと自然との共生を考えていく中で、クマとの共生を考える新たな動きが生まれました。動いたのは町内の中学生でした。東北自動車道や国道でクマの交通事故死が増加。それに心を痛めた中学生たちが実のなる木の森づくりを始めたのです。エサが不足して、里に出没し、人に危害を加えたり、交通事故で死んでしまう動物を少しでも減らしたい。そのやさしい思いが行動となり、山王海地区に「木の実は動物に、用材は人に」を合言葉に、2002年から毎年、クリ、コナラ、ヤマボウシなどが中学生の手によって植えられていったのです。2006年11月には、小雨まじりの天候の中、約60人の生徒がコナラの苗200本を植樹しています。そして、5年後の2007年からはその事業を紫波みらい研究所が町から委託され、町民参加の事業として引き継ぎました。このようにして生まれたのが「平成の森」です。

現在は、山王海土地改良区による「湖と森のふれあい研修～動物と共生する森を創ろう！～」事業の一環として、町内外の親子のみならず、全国からの参加者も含めて実施されています。このようにして紫波町の森づくりが全国的にもPRされるようになったのです。



町有林「平成の森」にヤマグリ、ミズナラ600本を植樹した「共生植林事業」  
(H14.10.10)

めぐりっと紫波では2020年の“新世紀未来宣言”20周年を前にして、町が取組んできた「循環型まちづくり」を確認し、さらにこれからの課題について6回シリーズで掲載していきます。

いま、クマやイノシシ、サル、シカなどによる食害や人との接触による事故が全国的に増えています。その主な原因は、森林の荒廃による生息環境の悪化やエサ不足、里山付近の高齢化による果樹の放棄、さらには人による餌づけなどにあると言われています。果樹栽培の盛んな紫波町は、平地と山間傾斜地が町の中心でも入り組んでいるため、クマにとっては人里への接近が容易な環境にあります。当時は人への危害は少なく、むしろ交通事故によるクマの死亡が頻発していたようです。そのようななか、紫波町の中学生が交通事故死したクマ（特に親子連れが多かったようです）をかわいそうに思い、里に下りてこないようにと山中に実のなる木の植樹を考え、自ら行動したのです。根絶、隔離ではなく、共生という先人の知恵がここでも継承されたこと、そして、思いやりのある選択をした中学生たちを誇りに思います。

平成の森が動物のための森づくりであったとしたならば、令和はそのようなやさしい心の



子どもたちをこれからも育むためのふれあいの森づくりをしてみたいかがでしょうか。1個のどんぐりから苗を育て、植え、その成長と共に子どもたちも育つ。自然には癒しと災害という両面がありますが、そのことを頭で理解するのではなく、体験で身につけ、対応していく力、まさに生きる力を育む空間としての令和の森をつくることがいま求められているのではないのでしょうか。

## ～平成の森の事業「湖と森のふれあい研修」の様子～

今年は9月29日（日）に県内外の親子や一般、関係者75名が参加して行われました。

雨天のため予定していた植樹、育林作業は出来ませんでした。平成の森を散策しながら以前植樹した栗の木に作られた熊棚や栗を食べた跡などが見ることができ、「動物と共生する森を創ろう」というこの事業の目的とその成果を参加者に知ってもらいました。



『熊棚』ツキノワグマがクリやドングリの木に登って樹上で枝を折ってはたぐりよせて食べるために、折れた枝の塊が座布団のように棚状になっています。



木に上り下りした時の熊の爪痕

ご存知ですか？

住民税や法人税として、個人や法人が市町村または県に納税し集められた税金が、森林整備の支援に使われています。



いわての森林づくり県民税  
SINCE 2006

森林は、水源かん養や山地災害の防止、二酸化炭素の吸収による温暖化防止機能など、さまざまな公益的機能を持ち、私たちの生活に密接に関わっています。

この県民共有の財産である森林を、県民みんなで守り育てる取り組みとして『いわての森林づくり県民税』を平成18年度に導入し、森林を良好な状態で次の世代に引き継いでいくため、森林環境の保全のための施策を実施しています。

### いわて環境の森整備事業

森林の持つ公益的機能の維持・増進を図るため、自分で手入れができない森林所有者に代わり、間伐を行います。

### 県民参加の森林づくり促進事業



県民の皆さんの主体的なアイデアと参加による「森林をつくる活動」、「森林を学び活かす活動」及び「森林資源を沿岸被災地のために活かす活動」を支援しています。

### いわて森のゼミナール推進事業



児童生徒をはじめ、広く県民の皆さんを対象に、森林・林業を学習する機会を提供しています。



担い手育成事業の様子

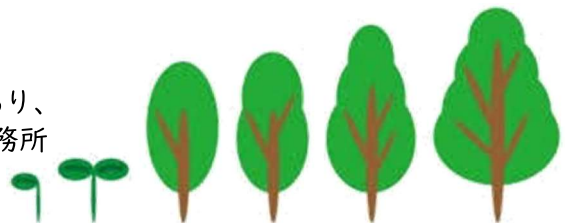
地域の森林の整備や林業の担い手育成の事業、子どもたちの森林学習、木材を利用した遊具などに幅広く活用されています。

紫波町ではNPO法人紫波みらい研究所が、「県民参加の森林づくり促進事業」を活用して「里山づくりプロジェクト」(里山づくり体験・森林づくり担い手育成・環境探検隊)を実施しています。

令和2年度の募集は令和2年1月末～2月末の予定です。詳細は岩手県盛岡広域振興局林務部へお問い合わせください。

#### ※応募対象団体

市町村、各種団体(団体の組織、運営等に関する規約があり、定期総会を開催する非営利団体)、NPO団体、県内に事務所又は事業所を有する法人



## 環境にやさしい洗剤で暮れの大掃除をしよう！

めぐりっと11月号で紹介しました「わかしお石けん」は、お掃除にも活躍してくれます。今回は、掃除に役立つ情報をご紹介します。すべて、天然成分で作られていますので、環境にもやさしいし、お肌にもやさしい商品です。



わかしお 粉石けん

この粉石けん、洗濯以外にも換気扇の油汚れにも使えます。作り方はとても簡単です。とろとろにするだけです。

作り方の目安はお湯 0.5 リットルに粉石けんをコップ1杯ぐらい入れ、かき混ぜます。お湯が冷めるとゼリー状になります。この時点で固かったり、ゆるかったりする場合は、調節してください。これを換気扇にぬり、その後、洗い流します。汚れ具合によっては、時間をおいたほうがいいです。このとろとろ、ぷるぷるになった石けんは、ふだんの食器洗い、網戸掃除にも使うことができます。ハンドミキサーで混ぜたものを排水溝に入れるとあまりごしごしなくても汚れがきれいに落ちます。

酸素系漂白剤は、洗濯機の黒カビ落としに使います。よく、洗濯槽の黒カビは、石けんを使用しているからと思われがちですが、合成洗剤でも溶け残りがあれば、黒カビはしっかり発生します。

洗濯槽に50度ぐらいのお湯を高水位でため、酸素系漂白剤を500~1kg、ドバッと入れます。洗いだけのコースで3~5分攪拌します。これを2~3回くり返し、一晩置きます。翌日、洗い、すすぎ、排水、脱水までやります。ここで洗濯槽の裏側にこびりついた黒カビがはがれやすくなります。その後、洗濯槽にきれいな水を入れ、洗いから脱水まで行います。黒カビがひどいと洗いの時に浮いてきますので、出なくなるまで洗いを繰り返してください。



わかしお 酸素系漂白剤

ふだんの洗濯の時に、少量入れると黒カビが発生しにくくなります。洗濯物・洗濯槽以外にも台所用品、冷蔵庫などにも使えます。



わかしお石けんクリームクレンザーです。天然油脂石けん研磨剤を配合したクレンザーです。液状で使いやすく、手荒れせず油汚れを落とします。換気扇・ガスレンジ・IHヒーター・シンク・浴槽などの汚れに使えます。

今回、ご紹介した商品は、すべて“産直マルシェ”花コーナーで販売しています。

次回からは、石けんの補助剤としてあると便利な重曹・クエン酸・アルカリウォッシュなどの使い方をご紹介します。